

神山神社だより

平成28年7月
16号

暑い日が続いております。六月に入ると梅雨となり、不快な日が続いておりますがいかがお過ごしのことでしょうか。今年に入り、またもや、熊本に地震が起こり、多くの人が亡くなりました。また、家を失い、土地を失い、過酷な状況に中で生活されております。ご冥福を祈ると共に早くもとの生活に戻るよう願います。東日本震災も未だ記憶に新しい中で起こったこの熊本の震災は日本中が地震に対する危機感をひしひしと感じたことではないでしょうか。今後、いつどこで起こるかも知れぬ地震に恐怖すら感じることはない様、事前に対応し、備えることが必要かと思えます。

神社関係者を含め、神社でも今回、熊本の地震災害に遭われた方々に対し些少ではありますが義援金を募り、神社庁を通じてお送りしました。一日も早い復興をお祈りいたします。

さて、話は変わりますが、五月末に三重では伊勢志摩サミット主要七ヶ国の会議が行なわれ、経済や南シナ海の懸案事項等が討議されました。テロの対策により警戒態勢の中、行なわれたわけでありま

すが、おもてなしの一環として、伊勢の神宮へ各国首脳、また御家族の方が訪問されました。日本の伝統文化に触れられた姿を各メディアが報道し、伊勢の神宮は日本の聖地であると絶賛した内容でした。その報道を見て改めて、伊勢の神宮にどんな国の人が訪れても素晴らしいところだと感じられる場所であると再認識したしだいです。

日本の神社・仏閣の伝統文化は、日本人の誇りであり、古きを訪ね新らしきを知ることで日本の精神性や生きる力そのものとなるのではないかと思います。少し大げさになってしまいましたが、伊勢神宮へ行きますとその意味がわかるような気がしてきます。行かれた事がない方は、ぜひ、行かれてはいかがでしょうか。特に朝早く出掛ける参拝は心が洗われるような気持ちになります。

追伸 筆者である私も(六月初旬)伊勢神宮参拝旅行へ同級生と出掛けました。



■平成二十八年度役員

神山神社は四月一日から翌年の三月三十一日までを事業年度として活動しています。今回、責任役員の交代がありましたのでご報告します。

氏子総代長	深谷充芳
氏子副総代長	
兼 営繕委員長	安保栄三
林業委員長	長瀬敏久
氏子総代長	古田裕茂(前会計)
氏子副総代長	
兼 祭典委員長	安保辰巳
林業委員長	東野隆幸
営繕委員長	花田住夫
会計	志津安美
	新任

■夏祭り(神社庁管轄神社)

神山神社	
七月二十三日(土) 宵祭り	
七月二十四日(日) 例大祭	
祭元	植苗木地区
富籤	長根地区
余興	川西地区
八布施神社(八布施地区)	
七月十七日(日) 例大祭	
菅原神社(新田地区)	
七月三十一日(日) 例大祭	

暑い日となりそうですがよろしくお願いたします。

■寄付金奉納

元中組ゲートボールクラブ・・・三万円
ありがとうございました。神社の維持管理費に使用させていただきます

■神社事業計画及び修復事業

神山神社平成二十八年度事業計画の報告をいたします。

祭典関係

六月三十日	大祓い(夏越の祓い)
七月十五日	お鍛祭り
七月二十三日	宵祭り(夏祭り)
七月二十四日	例大祭(夏祭り)
八月十五日	幽玄御神灯祭(ろうそく祭り)
十一月二十三日	秋祭り
十二月三十日	大祓い(年越の祓い)
一月一日	元旦祭
二月十七日	天神神社祭典
三月一日	春祭り
三月二十日	震災鎮魂祭

林業関係

- 一. 神社境内林の枝の伐採
- 一. 本殿・拝殿北側ヒノキの一部伐採
- 一. 正月用かがり火用薪の準備

営繕関係

- 一. 手水舎修理(業者委託)
- 土台と柱の入れ替えを行います。

一・境内地参道修理（業者委託）

一・本殿拝殿北側排水工事並びに拝殿地の拡張（業者委託）

一・各施設屋根枯葉の除去作業

その他（特別）

一・建設委員会の設置

設置理由

神社北側にある蔵は宝物等を保管しているわけですが、蔵そのものが壁が剥がれ崩れる状況にあります。

社務所ですが明治時代に立てられ屋根の修復を昭和の終わりに行ないましたが、肝心の耐震工事が行われていない状況です。大きな地震が来れば、まず、最初に倒れると判断します。耐震工事を行い、なおかつ多くの人寄せができる施設に替えることを希望しております。

（氏子会館の中に祖霊舎があり、身寄りのない方の御霊が祀られておりますが、三十件の御霊舎に対して二十一件ほどお預かりしております。氏子会館が出来てからですので年平均三件〜四件の御霊をお預かりしており、このままではすぐいっぱいになります。別の所に施設を移し、今後も、希望者があればお預かりしたいと思います。其のために、今の社務所の一角に移す方向で考えております。）

最近多くの方から、「神社に行って見たけど誰もいない。お守りがほしかったの

に」と云う声が聞かれます。また、つい先月、兵庫県姫路市から観光バスで来られた方より、「参拝に来たので、御朱印がほしかった」と連絡がありました。

「このように神社施設の現状からして良くしていかないと、この、神社の繁栄、強いては福岡の発展へと繋がりません。委員会を設置し必要なことから進めてまいりますので宜しくご理解申し上げます。

■ 幽玄御神灯祭 八月十五日

（ろうそく祭り）

本来、神山神社に無かったお祭りですが、三年ほど前から始めました。最初は夏祭りが終わり氏子総代さんたちの慰労会を行なう予定でしたが、何か催しものを作らねばという事になり、偶々、伊勢の神宮御遷宮のご神木を付知から出すご神木祭に使用したろうそくのカルツプを譲り受けたことによりろうそく祭りを敢行したしだいです。昨年は、ろうそく祭りに合せミニコンサートも開きました。今年は、ろうそく祭りに合せ、映画会、ミニコンサートを企画中です。ぜひ、多くの方に神社参拝を兼ねて来て頂きたいと思っております。

因みに、映画は日本の神話を題材にしたもので特に、お子さんに見ていただけるものです。

■ 日本の文化 （氏子のしおりから）

神社にお参りし、お賽銭を捧げ、手を合せて祈る。お神札やお守りを受け、おみくじを引いて一喜一憂する。気持ちを改め清々しい気持ちになろうと神社にお参りすることは日本人にとっては自然な行為です。

「ご飯を食べるとき「いただきます」といいます。作ってくれた方への感謝や命をいただくと言う意味が含まれています。別の意味で自然と云う恵みを与えて下さった神々に対する感謝を表す言葉でもあります。私たちの日常生活には神々と共に暮らしてきた日本人の心を見つづけることが出来ます。

日本人にとって稲作は、神聖な営みでありました。様々な自然条件が満たされ、人の手が加わるほどに豊になりました。日本人の勤勉さは、変化する自然を見つめ稲作を行なう中で培われてきました。また、宮大工達が神社を建造する際に「携われることの誇り」の気持ちを抱くのは神々に対する奉仕であり「人の為に尽くす」真摯な姿勢、勤勉な態度としての現れであります。日々の暮らしの中、仕事の対する姿勢、行いは神々の手振りに通じるものがあるのです。

ごく自然に日々の中に溶け込んでいる神を敬う気持ちは、古の時代より、日本人の生活や考え方の基本を形作り今も日

本の文化の根底にあり続けているのです。

暑い日が続きます。
健康に留意して夏を乗り越えてください

